

2008年7月23日

JP モルガン・チェース、エジプト経済は高成長が続く見通し

米大手銀行の JP モルガン・チェースはエジプトに関する報告書の中で、エジプトの経済成長が今後も続く見通しであると述べた。

2004年7月に始まった経済改革努力を起点とする景気拡大により、2008年1-3月期の成長率は年7.4%に達した。

JP モルガンはエジプトの貧困対策や金融システムの強化を高く評価した。

エジプト政府は大きな財政負担となっていた燃料補助金の段階的な削減に着手し、燃料多消費型産業向けの燃料価格の一部自由化により物価上昇に苦しむ貧困層支援を強化した。

国営企業の不良債権処理は金融セクターの抜本改革へと発展し、M&Aによる銀行セクターの再編は銀行の財務体質を強化した。

報告書はまた、エジプト経済が直面する課題として、高水準のインフレを背景に5月に決定した公務員給与の引き上げや貧困層支援策による支出増加を挙げている。政府は財政赤字の削減目標として、対GDPで6.9% (07年6月末時点では7.5%) を掲げている。

2007/08年度の国際収支状況に関しては、観光収入、海外就労者からの送金、スエズ運河通航料収入が堅調な一方で、原油や商品価格の高騰がそれらを相殺していると述べた。

プラス要因としては、2006/07年度に約110億ドルに達した海外企業からの直接投資の増加を取り上げた。2007/08年度は最初の9カ月間ですでに113億ドルが流入し、前年度の直接投資額を超えている。